

區々であることを豫想してブラウニングは直接
間接の關係者によつて抱かれさうな種々異なる
批判を述べてゐる。

新著紹介

○日本鳥瞰圖

西村健二編 第一、二輯

東京淺草向柳原東京都成信發行 昭和六年十月
各輯五枚一組 三圓五〇錢 一枚七十錢

本圖は地形模型を寫眞にとつたものから描いたもので、地形
圖からブロックダイヤグラムを作つたものではない。従つて
山の皺を自由につけてある點で判りがよい。殊に線と共に蔭
をつけてある圖葉もある。第一輯は箱根火山、淺間山、八ヶ
岳、日光火山群、富士山の五つ、第二輯は甲府盆地、秩父盆
地、神戸附近、丹那盆地附近、佐川盆地の五つで、前輯は火
山の地貌を知るによく、後者は主として盆地の形態を窺ふの
によい。小さな教室であると掛圖として役立つもので中等學
校の地理科には甚だ手輕な然かも正確な教課用圖として之に
勝るものを見ない位である。これによつてブロックダイア
グラムの手本とするのにも足りる。續刊されてゆくのを地學
教育の爲めに待望する。(中村)

新著紹介

○地形表示法としての正形浮上り圖法

On the Orographical Relief Method of Hill
Delineation. 田中吉郎著 土木學會誌、第十八卷、
第三號 昭和七年三月

著者は在來の地形圖の方法が觀者をして容易に地勢を了得
せしめる力に缺くる事を、總ての方法に共通なる短所である
とし、此の點に對して一步を進める爲め著者の所謂自然的方
法の根本に溯り、照明學の理論に基き地表面上の陰影の濃淡
を一つの數式にて表はし、これより定めたる陰影を更に圖上
に正確に表示する方法を考究した。此の著者の創意に依る圖
法は數十年來行きづまりの感ある地形圖示の方法に對し、一
新機軸を出し得たものと信ぜられる。以上は本著の内容梗概
であつて全篇八頁、緒言、理論的考察、製圖の方法、正形浮
上り地圖と其の地形學的表現能力、結論の五章に分ち、附圖
として、著者の方法による富士山及び箱根山附近の地圖寫眞
地形學的説明圖(幼年期、壯年期、滿壯年期、あすびーて、
かるでら、襖頭川、浸蝕谷、斷層谷などの形が正形浮上り地
圖には明に示されると説明してある)及び在來の水平曲線圖
の三葉を附す。紹介者の如く水平曲線圖を見馴れた者には在
來の表示法もよく分るが、正形浮上り法はその圖法名の示す
通り、レリーフがついて見えるので面白い方法だと思ふ。

(上治)